

織研新聞社

伊若手デザイナーコンクール「イツツ・コンテスト2026」 独自の視点とストーリーテリングの力を求めて

2026/04/27 更新 有料会員限定



イタリアのトリエステでこのほど、若手デザイナーのコンクール「イツツ・コンテスト2026」（主催イツツ財団）が開催された。02年からスタートし、今回24回目を迎えた。

（ミラノ＝高橋恵通信員）

【関連記事】 [伊「イツ・コンテスト2025」
若手デザイナーへ共に成長する機会を提供](#)

一昨年まではコンクールがメインの形式をとっていたが、昨年から大きく形を変えた。優勝者1人を決めるのではなく、10人を選出して、「イツ・エクセレンス・アワード10×10×10」を授与。その全員に向けて10日間の滞在型制作活動の機会を提供すると共に、1万ユーロの賞金を贈り、同財団のミュージアム「イツ・アルカデミー・ミュージアム・アート・イン・ファッション」（以下、イツ・アルカデミー）で開催する「ライズ・アンド・シャシン展」に作品を10カ月間展示する。

滞在型制作活動プログラムでは、個人およびグループでのメンタリング、ワークショップ、ディスカッションセッションを組み合わせ、参加者がより意識的かつ体系的なデザインビジョンを構築できるように支援を行った。今回は企業やアーカイブ訪問の他、トリエステ周辺フリウリ地方の伝

レナーズは、シュールレアリスムにおける女性の表現、すなわち、その体が断片化されたり、さらに変容させられたりする表現に焦点を当てた。画家のジョージ・アンダーウッドのマジカル・リアリズムにインスピレーションを受け、表現がいかにして現実に対する私たちの認識を形作るかという概念に注目。芸術における女性のシュールレアリスム的な描写、そしてそれらが現実とは一致しない理想化されたイメージを社会が構築する過程に与える影響について探求した。

3Dプリンターを活用したトップなど、素材使いも興味深い。「プロとしての目標達成への意思、強力な歴史的痕跡、音楽や演劇の芸術的コード、実験的素材の使用、セルフプロデュースの論理」が評価され、「依然として男性が支配的な業界において、今必要とされる女性的な視点を提案し、今後の方向性を導く力を秘める」として、今回の受賞となった。

その他の賞も、若手デザイナーの未来を見据えた副賞が授与される。全員に贈られたのは「OTB賞」。副賞は、「ディーゼル」などを擁するOTB

賞」。副賞は、「ディーゼル」などを擁するOTBグループの企画製造現場の見学ツアーとサステイナブルに関する研修。サステイナブルな作品に贈られる「伊ファッション評議会賞」は、中国のウェンジー・ウーが受賞した。副賞は5000ユーロ。優れたニット作品に贈られる「モーダテカ・デアнна賞」もウーが受賞。ニッターやニットヤーンメーカーなど、メイド・イン・イタリアのニット製造現場と直接関係を築くための機会が与えられる。



「審査員特別賞」のクロエ・レナーズ



「伊ファッション評議会賞」 「モーダテカ・デアン」

素材とそのイノベーションに優れた靴の作品に贈られる「フェラガモ財団賞」は、英国のジェミー・オグレディが受賞。フェラガモの本拠地、伊フィレンツェに滞在し、同財団で研修が行われる。「ヴラッド賞」もオグレディが受賞。伊ファッション産業のサプライチェーンを巡る3日間の特別プログラムが提供される。

「ソッツァーニ財団賞」は、フランスのティージェーン・トール。副賞は、ミラノのソッツァーニ財団スペースでの個展開催。「ピッティ・イマージネ賞」は、英国のウィリアム・パーマーが受

賞。ピッティ・ウオモにおける業界のプロとの交流などが予定されている。優れたアイウェアに贈られる「レイバン・パート・オブ・エシロール・ルクソティカ賞」は、フランスのスティーヴン・シュヴァリエが受賞。



「フェラガモ財団賞」「ヴラッド賞」のジェミー・オグレディ



「ソッツァーニ財団賞」のティジェーン・トール



「ピッティ・イマージネ賞」のウィリアム・パーマー

また、来年1月に発表される「イツツ・パブリック・チョイス賞」は、「イツツ・アカデミー」の「ライズ・アンド・シャイン展」来場者による人気投票。副賞として5000ユーロが授与される。

イツツ財団のフランキン代表は、「審査員は常に、独自の視点、そして何よりも、並外れたストーリーテリングの力を求めている」と説明する。

「若いデザイナーたちが個人的に語る物語には価値がある。この宙ぶらりんな時代、新たな道を模索しているファッションシステムにとって、彼らの思考は未来を築く一助となり得ると確信している。創造性は単なるプラスアルファではなく、必要不可欠なものなのだ」と語る。

スポンサーの一つであるOTBグループのレンツォ・ロッソ会長も、「創造性こそがこの業界の力であり、未来を築くための武器だ。若手デザイナーたちは、彼らにとって自然な価値観であるサス

ティナビリティーを中心に据えながら、既成概念を打ち破る勇気を持って、新たなアイデアを打ち出してほしい。長年にわたり、イツツは独自のビジョンを示し、新しいメッセージを発信する人々にとって重要なプラットフォームとなってきた。

受賞者たちは、自身の才能、他者との違いとなる要素に投資し、それを唯一無二で、一目で分かるものへと昇華させてほしいと願っている。そうしてこそ、ファッションは進化し続けるのだ」と、若手への期待を述べた。

<https://senken.co.jp/posts/its-260427>